

＜上海旅行を終えての感想（コラム）＞

75 歳にして、12 年ぶりの中国旅行は私に様々な感想をもたらした。そこで私が思いついたことを、思いついたままに、コラムにまとめると次の通りだ。

コラム（１）ピカピカの高級車ばかりの風景にビックリ！

1) 私の前回の上海旅行は 2012 年、その時点で経済成長著しい上海では、ピカピカの高級車が目立っていたが、2001 年の最初の大連旅行、2002 年の西安旅行をはじめ、その後のツアー旅行では、中国の車は中古車が多かった。タクシーもかなりオンボロだった。

2) そのため、今回上海浦東空港に迎えに来てくれた李クン、劉クンが高級車に乗っていることにビックリ。さらに今回、空港からホテルまでの約 30 分の道も高速道路を中心に走ったが、私の目の中に入る車はすべてピカピカの高級車ばかりだった。日本では軽自動車がたくさん走っているが、上海では軽自動車はゼロ、また軽トラや大型トラックも全く走っていない。中国産の E V 車は B Y D 社が有名だが、ベンツや BMW のトヨタの輸入車を含めて見事に高級車ばかりだ。これは 4 泊 5 日の今回の上海旅行を通して、最も強く実感したことだ。

コラム（２）上海のタクシー事情—いわゆるライドシェアが定着！

1) 私たち団塊世代の日本人のタクシーのイメージは、流しのタクシー。いつでも、どこでも、ちょっと手を挙げれば、目の前で流しのタクシーが止まってくれるものと考えていた。もっとも、1980 年代後半のバブルの時代は、夜遅くまで飲み歩く人種が増えたため、銀座や北新地では、帰りのタクシー乗り場でタクシーに乗れず、流しのタクシーを拾うため一万円札をちらちらさせた、という逸話も有名だ。

2) A I 化が進んだ今では、タクシーは“GO！”つまりスマホで予約するシステムが主流になったから、スマホを使いこなせない私たちの世代は容易にタクシーを拾えなくなった。その上、今は菅元首相の持論であるライドシェアの議論が進み、少しずつ実施されている。それに対して、中国では、少し前には配車アプリ滴滴出行（DiDi）が有名だったが、最先端に行く上海のタクシーは今、そのほとんどがライドシェアに切り替わっているらしい。そのシステムは私にはさっぱりわからないが、李クンをはじめ中国の若者たちは全員、それをスマホで使いこなしているからビックリ！そのため流しのタクシーは 1 台もおらず、日本人旅行者の私がタクシーを拾おうと思っても絶対に無理。また、昔から中国ではタクシー料金は安いから若者でも料金を気にせず載っているため、私が「料金はいくらだった？」と聞いても「知りません」と全く関心がないらしい。もちろん料金もスマホで一発決済だから、現金が動くことは一切ない。なるほどこれは便利。しかし、これでは年寄りから“足“を奪うことになってしまうから、その弊害は・・・？

コラム（３）スマホ決済と現金の使い途

1) 私は 2023 年 7 月にそれまで愛用していた格安スマホから一気に iPhone15 ProMax という最高級品に買い替えた。それはスマホでの写真撮影に慣れ、その便利さとキレイさが毎年のように買い替えていたデジカメを上回る、と確信したためだ。

2) もっとも、新スマホのカメラ機能や LINE、WeChat、Weibo 等のアプリは狙い通りの機能を果たしているが、マップや時刻表のアプリはほとんど使いこなせていない。また PayPay も一時期使ったことがあるが、大量の資金をスマホに動かすのは怖いから、結局使わないままだ。

3) タクシーを呼ぶための GO アプリも自分では使えないため、若者と一緒の時でなければタクシーを呼ぶことすらできない状態になっている。それまでは MK タクシーを電話で呼び予約を取っていたが、近時は MK タクシーもほとんどスマホでしか予約できなくなっているから、困ったものだ

4) そんな私は、中国では現金やカードを使えるところは限定されており、ほとんどはスマホ決済だと事前に聞かされ、戦々恐々としていた。タクシーに乗れないこと、地下鉄等公共交通の切符を買えないことは率直に現実を受け入れなければならない。しかし、早朝のホテル前のコンビニへの探索で、コーヒーを現金を買うことには大成功！また南京大路のお土産店で 100 元紙幣を出してお土産を買い、お釣りを現金でもらうことにも大成功！さらに、レストランの料金もマッサージ店の料金も人民元で支払うことができたから、これもひと安心だった。てなわけで、上海でのスマホ決済と現金の使い途についての“坂和的大冒険”は終わったが、さて、次の訪問時は上海のスマホ決済はどこまで変化（進化？）しているだろうか？